

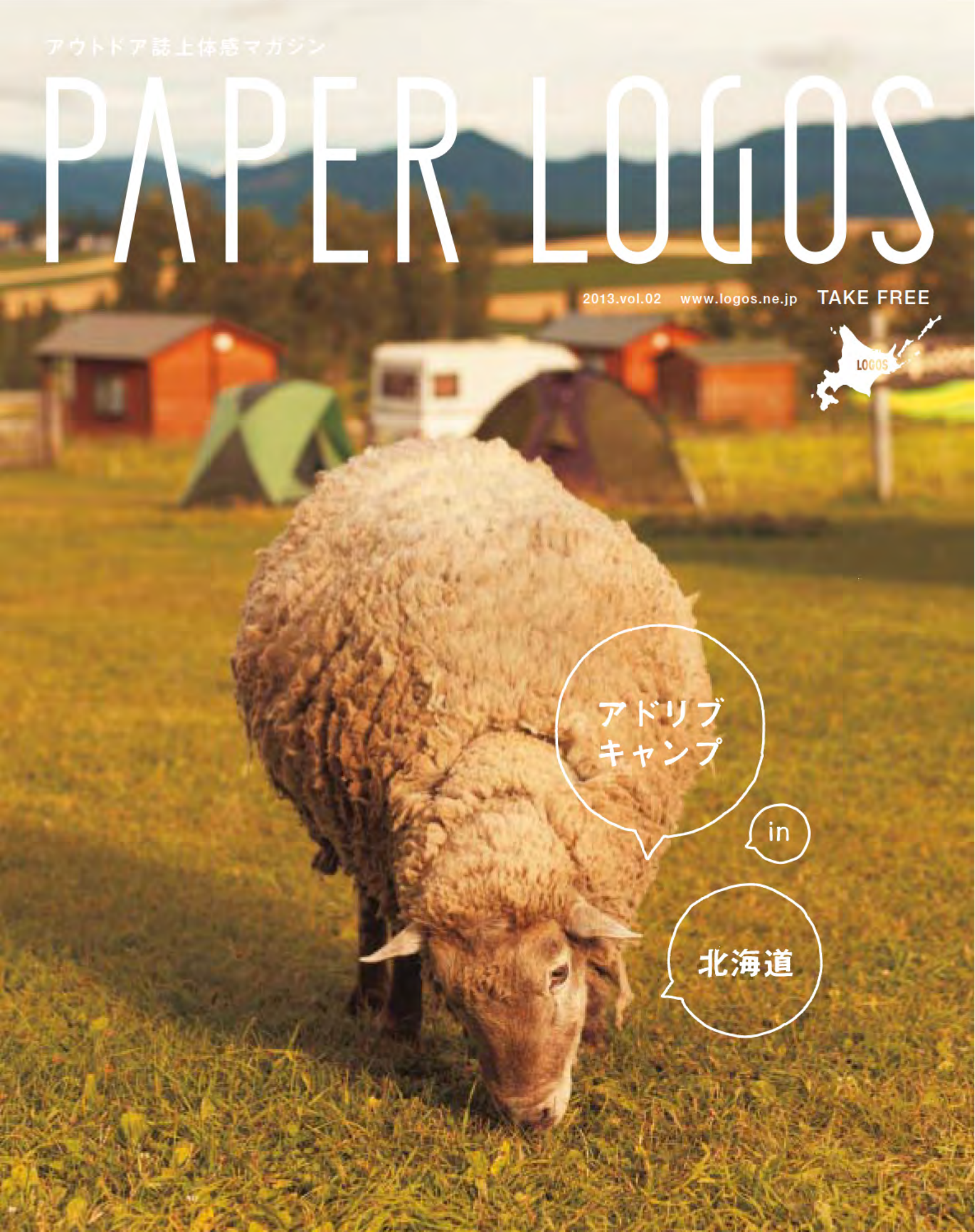
アウトドア誌上体感マガジン

# PAPER LOGOS

2013.vol.02 www.logos.ne.jp TAKE FREE



LOGOS



アドリブ  
キャンプ

in

北海道



## What's PAPER LOGOS?

アウトドアブランドLOGOSは、アウトドスタイル・プレゼンカタログ「Smart LOGOS」、WEBマガジン「月刊LOGOS」などの自社メディアを発行&更新しております。そんなオリジナルコンテンツを再構成し、さらに、本誌独自の特集を加えた「アウトドア誌上体感マガジン」がPAPER LOGOSです。

## Contents

### 特集

アドリブキャンプ in 北海道 ..... 002

### FES

JOIN ALIVE 2013 .....	026
FUJI ROCK FESTIVAL '13 .....	034
LOGOS meets WEDDING FES .....	042
コラム「グラストンベリー・フェスティバル」 .....	046

### TRIP

西表島の一週間。 .....	050
ROOTS .....	062
コラム「日本で一番“高い”温泉」 .....	074

### BBQ

タモリさんとヨットと音楽とBBQと。 .....	078
BBQレシピ①「卵のせ簡単ミートポテト」 .....	085
女優とBBQとグラビア「Actress with B.」 .....	087
BBQレシピ②「豆とセロリのスープ」 .....	093
コラム「LOGOSのBBQ教室」 .....	094
BBQレシピ③「サーモンOLB蒸し焼き」 .....	096
BBQレシピ④「焼き桃」 .....	097

### 巻末特集

ロゴコレ!~The LOGOS collection~ .....	100
from Smart LOGOS「野電生活」 .....	108
インフォメーション .....	111

YADEN SEIKATSU

野電生活、  
始めませんか？



詳しくはHPへ  
LOGOS → [www.logos.ne.jp](http://www.logos.ne.jp)



# アドリブ キャンプ

in

北海道



AD-LIB CAMP  
in HOKKAIDO

撮影：岡 映  
取材・文：藤澤和也  
取材日：2013年7月

古代ギリシアの哲学者であるソクラテスは「私は知らないということを知っている」との名言を残している。アドリブキャンプin北海道。暑寒海岸キャンプ場、朱鞠内湖キャンプ場、星に手の届く丘キャンプ場、美笛キャンプ場。北海道を縦断しての4つのキャンプ場を巡る旅は、知らないことだらけの4日間でもあった。たぶん、偉大なるソクラテスは、いまで言うところのアウトドア派だったに違いない。机上の学習だけでは先の名言にたどり着けるわけがないと確信したのも、今回の旅の成果だからだ。そして、誌上体感マガジンであるPAPER LOGOS読者にはひとつだけ知っておいてもらいたいことがある。実は、この素晴らしい旅の始まりはLOGOSの無茶ぶりから始まっていたという事実をである。





L

米林嶺くん&Yuki Bohrさんご夫婦。朱鞠内湖キャンプ場で友達になった。Yukiさんはデンマーク人の母と日本人の父を持つのだが、父方の実家である旭川に帰省中に嶺さんと出逢う。デンマークの人は、キャンプと言えばスウェーデンに出かけるらしいが、ここ朱鞠内湖の美しさは、そんなスウェーデンにもひけをとらない素晴らしいと微笑んだ

R

美笹キャンプ場でロゴサーを発見！ 加藤さんご一家は、ご主人の転勤の都合で、静岡県から北海道へ移り住むことに。雄大な北海道で育つ未来くん（3歳）の未来が楽しみです。「このキャンピングカーは結婚前に中古で150万円のやつを買ったんです。ほら、結婚しちゃってからだと嫁さんがなにかと……ねえ（笑）？」。その気持ち、激しく賛同！





朱鞠内湖には、第1から第4までのテントサイトがある。第4サイトには「ヒグマ出没





朱鞠でキャンプした9日の朝食、ト...  
だ...料理...は器...な関くん...  
担...のだが、撮...刀取...か...  
た彼に代わ...このホット...だけは、  
...ことになる。ひどい。切り込みを入れ...  
ぎて、い...にも...さうだ。それでも、「美...  
味...す」と...ふり...く...た...





L  
▼  
アドリブキャンプの2日目、朱鞠内湖の夜。宿泊客は4組程度で超静か。湖畔に映ったほぼ満月が、尋常じゃないくらい美しかった。そちらの写真は、本誌最終ページにチラ見せしておりますので、よかったです。ちなみに、写真手前のソロテントが僕の旅先での我が家。快適でしたよ。快適でしたけど、Lサイズのテントってやっぱりいいなあ

R  
▼  
千葉県からバイクで北海道までやってきたふたり。清水宏光さんは5回目の北海道で、真室美沙緒さんは2回目の挑戦だった。「普段の楽しみは90%がドライブで、キャンプは10%ぐらいのついでなんです。でも、北海道の楽しみは50%のドライブと50%のキャンプになる。なんなんですかね。やっぱり景色がいいからかなあ」(清水さん)

← 本文はP20に続く

初めて覚えたキャンプ用語は、「ベグダウン」だった。テントを建てる時に、地面にベグを打ちつけることをそう呼ぶのだが、それから3年がたったある日の僕は、北の大地で何度も何度もベグダウンを繰り返していた。夏の始まり、7月26日から4日間のことだ。話は、梅雨の終わりの頃にさかばる。

「どーしましょ？」

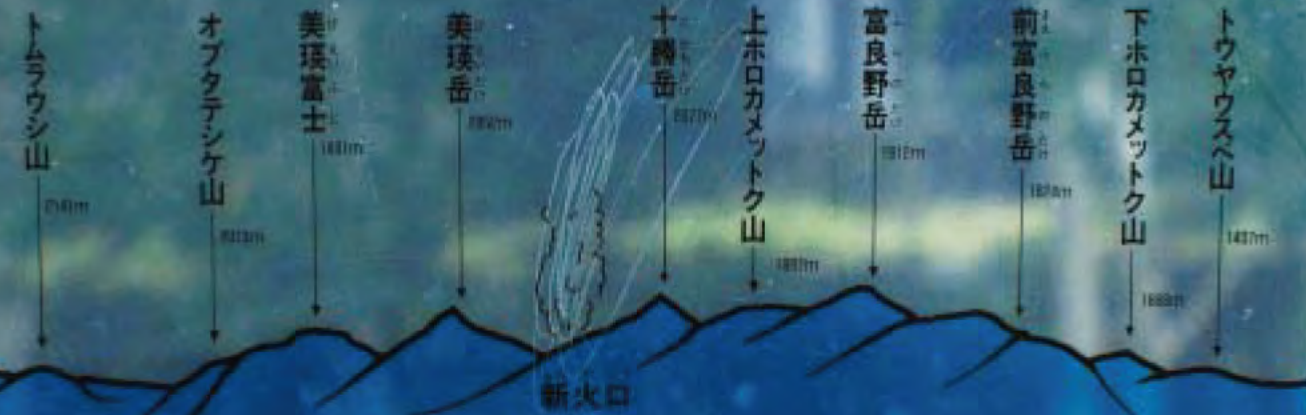
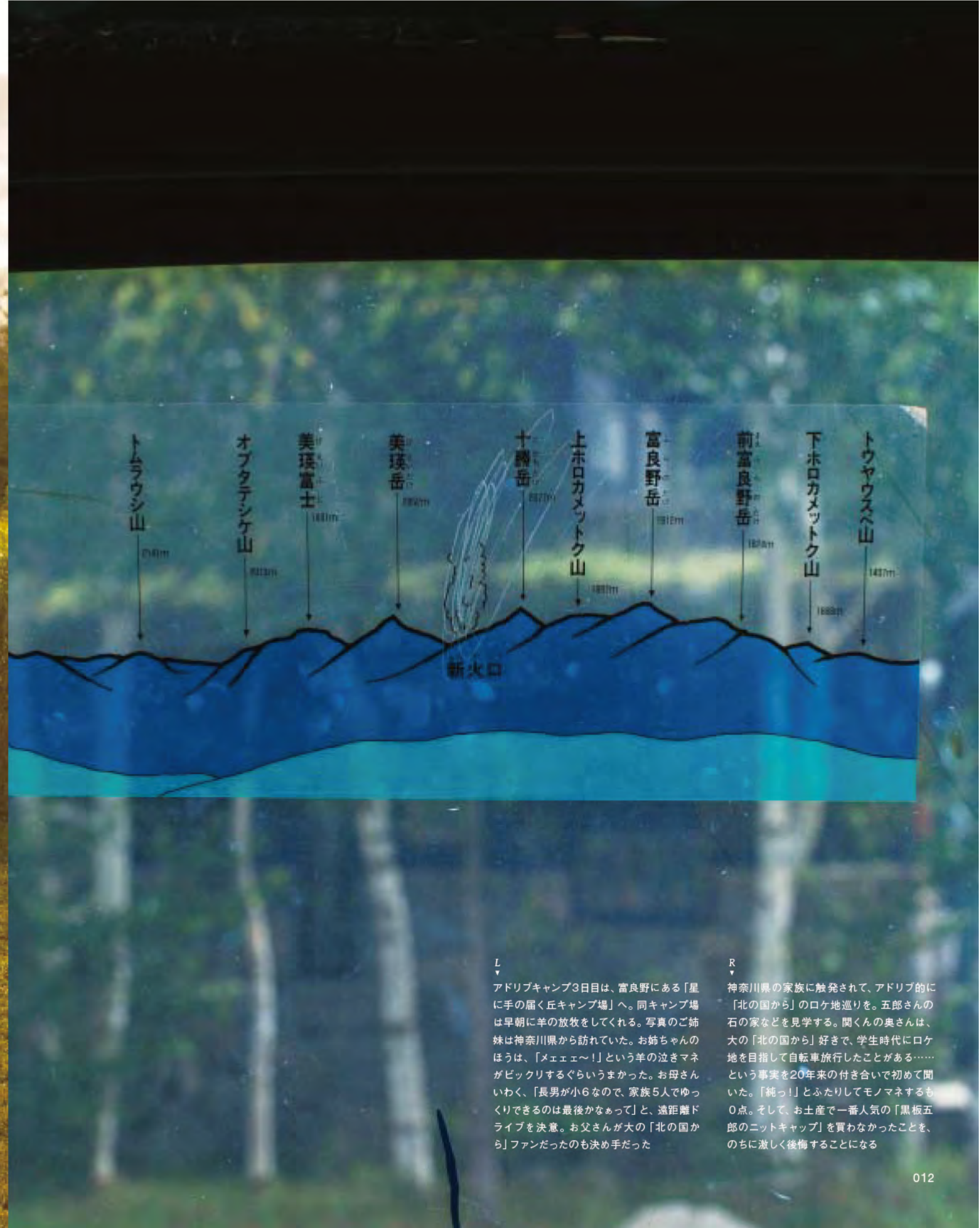
独特のイントネーションの関西弁で問いかけてきたのは、LOGOSの本誌担当者G。前職の吉本興業マネジャー時代からなぜか気があったし、彼が担当する芸人がM-1決勝に進めなかった夜は、ふたりで泣いたりもしている。

だが、長年の付き合いで、彼の「どーしましょ？」には気をつけろと全身が警報を鳴らしていた。聞けば、今年のJOIN ALIVE（※P26より特集）は、2週連続開催に初挑戦するらしい。その間に僕らが東京へ戻っても、宿泊し続けても経費的にはあまり差異はないとのこと。ここまではいい。問題は、「どーしましょ？」だ。どーするもなにも、観光して美味しいものを食べていけば4日間なんてあっという間にすぎる。

「どうせだったら、なんかしらの企画をのっけませんか？ 2014年度は、うちも過去に例をみない数の新製品をリリースしますし、







L

アドリブキャンプ3日目は、富良野にある「星に手の届く丘キャンプ場」へ。同キャンプ場は早朝に羊の放牧をしてくれる。写真のご姉妹は神奈川県から訪れていた。お姉ちゃんのほうは、「メェエ〜！」という羊の泣きマネがビックリするぐらい良かった。お母さんいわく、「長男が小6なので、家族5人でゆっくりできるのは最後かなあって」と、遠距離ドライブを決意。お父さんが大の「北の国から」ファンだったのも決め手だった

R

神奈川県に家族に触発されて、アドリブ的に「北の国から」のロケ地巡りを。五郎さんの石の家などを見学する。関くんのお父さんは、大の「北の国から」好きで、学生時代にロケ地を目指して自転車旅行したことがある……という事実を20年来の付き合いで初めて聞いた。「純っ！」とふたりしてモノマネするも0点。そして、お土産で一番人気の「黒板五郎のニットキャップ」を買わなかったことを、のちに激しく後悔することになる





富良野の田園風景を車窓から一望する。夜の7時でも、まだ明るかった。アドリブキャンプは、アドリブドライブでもあり、総走行距離は約1000km。このあと、「ジェットコースターの坂」と呼ばれる、かなりのアップダウンの道を走破したつもりになるも、アイスを買ったお店のおばちゃんに「これは「ふつうの坂」だよ」と一刀両断される





L  
▼  
幻の魚=イトウの稚魚の撮影が可能となったのは、まさにアドリブだった。朱鞠内湖キャンプ場で働く黒田彩子さんと雑談していると、魚好きが高じて（大阪の海遊館で働いていた）北海道に移り住んできたことを知る。そんな彼女が教えてくれたのが、イトウに絶滅の可能性があるということ。DNAを絶やさないため、繁殖の研究が行なわれている



R  
▼  
新冠郡のビッグレッドファームで働く矢吹さん（22歳）は、子どもの頃から馬が大好きだった。今年から重賞勝ち馬であるサラブレッドの世話を任せられ「プレッシャーです」と緊張気味。同牧場の取材でお世話になった蛭名さんの「外敵から逃げようとする馬のDNAを利用しているのが競馬なのかもしれません」という言葉が、なぜか心に残った